

2022 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録
(観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科ホテル科・ブライダル科・デュアル科)

日時	2022 年 8 月 22 日(月)	場所	エアポート実習室	進行	湊	記録	長谷川
出席者	企業名・団体名	名前	業界				
	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	清水 徹也	観光・鉄道				
	千葉都市モノレール株式会社	今関 真治	観光・鉄道				
	T-LIFE パートナース株式会社	酒井 大之	観光・鉄道				
	株式会社日本旅行	只隈 修一	観光・鉄道				
	株式会社旅行綜研	石井 光彦	エアライン				
	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	鈴木 繁	エアライン				
	一般財団法人成田国際空港振興協会	地曳 俊輔	エアライン				
	株式会社エコーパートナーズ	山田 将人	エアライン				
	株式会社エコーパートナーズ	松井 哲至	エアライン				
	イオンモールキッズドリーム合同会社	伊藤 弘美	テーマパーク				
	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	飛田 和子	ホテル・ブライダル				
	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル				
	学校 校長	矢口 博士					
	学校 副本部長	古川 博文					
	学校 観光科・鉄道科	立石 智之					
	学校 観光科・鉄道科	富澤 邦明					
	学校 エアライン科	湊 さやか					
	学校 エアライン科	松本 多英美					
	学校 夜間部・エアライン科	栞原 和希					
	学校 テーマパーク科	石神 直人					
	学校 テーマパーク科	長谷川 慶太					
	学校 ホテル・ブライダル科・夜間部	小園 達郎					
学校 ホテル科	大久保 昇						
学校 ブライダル科	塚本 綾						
学校 就職	澤田 唯之						
学校 学務	北 和樹						

【全体会】

司会進行：湊

今回の教育課程編成委員会は、ホテル科・ブライダル科・観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科で開催。

1. 校長挨拶

コロナによって系列校で行事・休校になった学校がある。

コロナ前93%の状態まで世の中の夏休みが戻るが、学生の募集に関してはいまだに厳しい状態が続く。

サステナブルに合わせた取り組みをどのようにしていくかが今後の課題だと考える。

2. 新任委員紹介

一般財団法人成田国際空港振興協会：地曳氏(エアライン)

3. 今年度赴任教員紹介

副本部長：古川

学務室長：北

4. 業界・企業の最新情報

今関氏(観光・鉄道)

令和3年に比べると乗車率10%増。コロナ前に比べると乗車率10%減。

駅員等の家族感染が相次ぎ運休手前までになるが回復傾向

千葉駅転てつ機更新工事を行うなど、安全輸送のための設備更新を進めた。

車両基地などを使うイベント、企業とのコラボイベントを行うが増える。

SDGsにつながる政策を更に考えている所。

酒井氏(観光・鉄道)

東日観光からティーライフパートナーへ社名変更

支店により状況が違うが、1月から8月はコロナ前の業績を越える。

他社教育旅行に携わる企業間でも温度差があり実施・中止の判断が大きく異なる。

今年度は教育旅行中止・延期は特にないが今後どうなるかが危惧される。

教育現場からは教育旅行等の行事は止めない。と明言されている。

旅行以外の所、物販販売に大きく力を入れ収益を確保している状況。

例年の動きが戻ってきたイメージがある。

只隈氏(観光・鉄道)

春先の旅行はすべて無事に終える。

感染者数が増えるが秋口の旅行での延期・中止等大きくは出ていない。

来年度の海外語学研修の問い合わせはあるが金額等でリスクがある為慎重に感じる。

保護者が向かうことのできる、陸続きの場所を行先に行っている教育旅行が増える。

修学旅行で海外に行くことができるようになるのは2025年以降になるのではと考えている。

石井氏(エアライン)

国内旅行の添乗業務がある程度戻ってきている。

7月後半から海外留学・パッケージの海外旅行が始まってきた。

海外添乗や海外派遣で8割の売り上げを担っていたが現在は5割程度。

ワクチン業務・空港の検疫業務を行っている。

国内旅行は沖縄から本州、本州から沖縄と沖縄軸状態が続いている。

水際対策は国内外問わず続いているため撤廃されない事には難しい時期が続く。

来年頃からインバウンドを中心に組み立てないと厳しいかと感じている。

議
事
録

鈴木氏(エアライン)

国内旅行のLCCはほぼ満席で人が増えている。
語学留学に向かう人が増えている。
旅客として人数が増えているわけではなく見送り等で人が増えている印象。
空港内にはいまだに運営できていない店舗が多く目につく。
アウトバウンド・インバウンドがまだまだ戻ってきていない。
旅行以外の分野で仕事を続けている状況。今後どうなっていくのかで頭を悩ませている。

地曳氏(エアライン)

空港へのお客様の数は戻ってきている。
昨年度はカウンターへの問合せ件数が1,000件程度だったが、現在は3,000件を超える問い合わせが入ってきている。
スタッフを75%程度まで増やす依頼があり募集をかけ、人材育成をしている状況。

山田氏・松井氏(エアライン)

弊社が担っている業務において、国際線の便数に関しては2019年度に比べると現在は32%ほど。昨年度、同時期の対比は161%。
手荷物の取扱量は1便約330%増加。
国際線は全盛期には及ばないが忙しくなり追いつかないことも多い。
同様に弊社が担っている業務において、国内線の便数は同時期に比べ209%と非常に増えている。
今年度の夏に関しては予約のキャンセルなどはほぼなく予定通りの運航をしている。
業務を担当しているピーチ・アビエーション社に関しては賑わいをみせている。
航空業界の離職が増えてきており、会社としての魅力を伝えて対応をしていきたいと考えている。

飛田氏(ホテル・ブライダル)

婚礼に関しては感染者数の増減に合わせて予約キャンセル・実行が反映される。
婚礼に関しては規模が小さくなっているように感じている。
8月、9月の婚礼キャンセル、延期が増えているのも事実としてある。
11月、来年に時期をずらすお客様もおり、早く感染症の終息を願う。

風間氏(ホテル)

第7派の影響もあまりなく個人利用のお客様に関してはコロナ前と同等な使用率がある。
ホテル全体としてはコロナ前に比べると70%の売り上げ。
海外からのお客様がほぼ0の為伸び悩んでいるのも事実。
首都圏のホテルに関しては今年度の夏、三世代の使用が増える。
人材の流出が増え、他業種へ転職活動をする動きが多くみられている。
正月のホテル利用を考えるお客様から予約を多くいただいている状態。
一日でも早く海外からのお客様が戻ってくることを願う。

伊藤氏(テーマパーク)

夏に関しては新チケット販売・SDGsをキーワードとしたブースリニューアルを行った。
駅前広告等を強化し少しずつ数値回復傾向。
教育系や団体のお客様から多くの問い合わせを受けている状況でコロナ前を上回る時期もある。
引き続き、コロナ禍の運営は続いていくので、パークの安全な運営をさらに心掛けるようになる。
完全な回復はないにしても、今までのパーク内の光景が戻ってきているようなイメージ。

清水氏(観光・鉄道)

夏の状況は7月の頭まで去年の2倍ほどの来店率だが、秋に向けて来店数が減ってきている。
コロナが理由でのキャンセルが減る。
教育旅行関係は2019年を超える勢いで件数が増え、北陸や東北に修学旅行先が増える。

社員旅行や慰安旅行はまだ戻る見込みがない。
ワクチン接種に携わる業務や旅行以外の事業が非常に好調。
添乗員不足・清掃スタッフ等の人材の流出が問題視されている。
円安の影響により海外旅行は当分戻らないと考える。
留学や語学研修に関しては6割程度戻ってきている。
12月を目安にインバウンドの回復を願う。

進行湊により全体会閉会。

【分科会】観光科、鉄道科

進行:立石が分科会を開会。

1. 2023年度以降の展開に関して

立石

観光、鉄道科の国家試験対策について、現状の1年生9月までで対策を行う内容から2年生9月に受験する方針に切り替える。また、座学ではない授業の展開や地域学習、地元企業とのコラボを通じて、現場で学んだことを活かす事が出来るような展開を検討しているがどうか。

清水氏:資格があるかないかについては入ってから取得すれば良い。それより、どれだけ多くの経験をしたか、また自分の体験を自分の言葉で語れるような人材を求めるので、資格については無いよりは有った方が良いが、逆に変わった資格を持った人材の方が面白いかと思う。

答えのないものを求める時代なので地元地域に訪れて地元の方と話すことで様々なツアーを造成してほしいと思う。観光業の一番の強みは繋いでいくことだと考える。色々な場所に滞在し色々な場所での色々な経験が自分の中で繋がっていくと就職先等を考えることにつながっていくと思う。

今関氏

現状では資格を持っている人を優先している部分も一部ではあったが、入ってからは企画力・提案力がある人材の方が活躍できることもあるので、学校以外の現場で学ぶという考え方は合っていると思う。企業連携については当社も進めており、学生にとっても良い経験になる。小湊鐵道と千葉銀とのクラウドファンディングにおける連携事業を参考に地元企業との事業を考えており、企業との連携が出来るという考え方をを持った学生が今後は欲しいと考えている。

2. 各学科に伴う資格の必要性について

立石

専門学校なのである程度の資格は必要だと考えるが、既存の国家資格やサービス介助士のような観光・鉄道分野の内容だけではなく、業界でこれから求める資格について伺いたい。また、別分野でもいいので、こういった資格を持っていると良いのではというものがあれば合わせて伺いたい。

酒井氏

非常に難しいと思う。企業側からすると資格より人物重視で人間力やコミュニケーション能力等がある方が重要。人と関わる仕事が観光業全体を通して多いので、外に出て何かを学ぶというのは良いと思う。専門学校としてというのを考えると国内管理者は最低限取るべき資格だと思う。

一方で思い切って大胆な考え方をするのであれば、資格試験対策はかなり削って、人間力を付けて総合的な企業に進む人材を育てるという考え方もあると思う。高校に募集をかけるに当たり、昔ながらの「合格率〇〇%」のような観点で学校を選ぶことはかなり減ってきているが、時代に合わせたカリキュラム変更は大変だと思う。

立石

今まで見てきた人材で、興味を引くような資格を持っていた人はいたか？

酒井氏

履歴書の中に国内管理者やサービス介助士・地理検定等を書いてくれる人は多いが、正直あまり興味は引かれない。数が多い事が影響あると思われるだろうが、そこはあまり重要ではない。

只隈氏

自分が居た頃は遊びに行く事が多く、それが今の仕事につながっている。資格を求めて来る学生もいると思うので、2年次に国内管理者を取得する流れにした場合、学習の差に応じて学校独自のネット上でのプログラムがあれば1年次に資格を取得したい学生にも対応できるのではないか。

あまり旅行にこだわった資格ばかりでなくても良いのではないかと思う。

今関氏

サービス助士は全員取ることになっている。持っていなくても社内で取らせるので、必ずしも持っていなくても良いと思うし、酒井様と同様に数が多くなくても良いと思う。
鉄道業は接客業であると共に、お客様の安全を守るという意識が大事だし、様々なトラブルに対応できるような人間力、問題を出さないための工夫や会社のルールを理解出来る方が重要。

立石

パソコンの資格や SNS, インターネット・動画作成のようなスキルは必要か？

清水氏

一番必要だと思う。地域の方々とコミュニケーションを取り、得た内容を動画等の制作物として作成し、パワーポイント等でプレゼンをするような授業を行うのがよいと思う。資格取得よりも、現場に出て話を聞き、その成果物を作り競い合う。その上で SNS を利用したり、様々な方法を用いてスキルを磨き、見栄えの良さ・伝え方・プレゼン力をあげていく事の方が、学校としても重要だと考える。

冨澤

2 年間というカリキュラム内では限界があるかもしれないが、数字を基にデータを分析するような教育を 3 年間かけて行った場合、21 歳での就活についてはどうか。

清水氏

3 年制の専門学生についてはあまり必要ないように感じる。2 年でも良いから、限られた中で主体的に動きながら得たものを面接等でアピールしてもらった方が興味を引く。

3. その他

立石

現状、鉄道に関してはある程度の入学者数は見込めるが、観光・トラベルは高校生の仕事のイメージが付きにくく、コロナの影響や社会の変化が原因で 23 年度は厳しい状況である。これは、当校だけではなく都内等も含めて同じような状況ではある。教育旅行等で接している中で学生が旅行を仕事と捉えられるような、何かヒントになるようなものがあれば伺いたい。

酒井氏

難しいかもしれないが、清水様の仰っていた、「現場に出て、作成し、発表する」という経験や授業は非常に良いと思う。更に単年ではなく繰り返すことで力になっていくと思うので、そういったカリキュラムは非常に良いと思う。

只隈氏

難しい内容だと思う。家族旅行等が多いと思うが、それが旅行会社で働くイメージに直結せず、ネットで予約し完結しているので、現場での仕事を見せてそこに憧れを抱く高校生をつくっていくのは実際に難しいと思う。SNS や Youtube・tiktok を用いて地域を活性するような素材を作り上げて授業で発表したり就職先への自己 PR に活用できるようなカリキュラムも良いのではないかな。

清水氏

現状の人数がそこまで少ないと思わなかったので残念だと感じた。旅の醍醐味や素晴らしさは経験してみないと分からないので、今の高校生はコロナの影響が強く、かわいそうだと思う。
業界としても、子供たちが何か観光に興味を持ってもらえるような特別な体験、地域の良さを感じることが出来るマイクロツーリズムなど、業界として子供たちに接するときに観光業の良さを伝播していくように頑張りたい。

進行:立石が分科会を閉会した。

【分科会】エアライン科

進行:湊が分科会を開会。

1. 就職状況について

松本

2022 年 8 月末内定率 73.3%(在籍数 206 名/内定者数 151 名)前年同時期 50.0%

湊

業界の離職率が高いという話が全体会で出たが、理由は何か。

山田氏

待遇(給与、労働時間等)の悪い別業種企業への転職もしくは、同業種で中小企業から大企業へ転職のどちらか。急激に仕事が増えているため、忙しきで心の病になる者もいる。

石井氏

修学旅行等の特定ツアーは増加しており添乗員が不足している。ただ全体としては、実行できるツアーが限られておりまだ回復していない。添乗員希望が少なくなっている。

湊

高校の進学担当の先生が航空業界を不安視されており、エアライン志望の高校生も減っている。

2. 2023 年度入学生カリキュラムについて

湊

サービスコースとカーゴコースの統合カリキュラム

山田氏

サービス職とカーゴ職で、考え方が全く違うスタッフが多い。危険物取扱の授業のように、サービスコースとカーゴコースに共通の科目は良いと思う。

地曳氏

インフォメーション勤務のスタッフは、カーゴについて全く知識がないので、知識として学ぶのはいいと思う。サービス系とカーゴ系では、業務上必要なスキルが違うのでそこを注意すべき。

湊

サービス系職種に必要なスキルである語学系授業とカーゴ系職種に必要なスキルを身に付ける授業とを選択制にしてはどうかと思う。

3. 実習の実施について

石井氏

インターンに参加後、その業界に戻ってこないというデータもある。内定先での早期実習は効果があると思うが、インターンは業界離れにもつながる可能性がある。

鈴木氏

旅客系の実習に参加し合わないと思った者がカーゴ系の職種に目を向けるなど、選択肢を持たせる機会にはなる。

山田氏

今回 ITHB 学生が参加した Peach の実習は、2～3時間の教育のみで行える実習であり企業にとっても学生にとっても良い機会となった。今後もこのような実習があれば継続したい。

4. 2 年生後期のカリキュラムについて

湊

2 年生後期からの業務研修(早期実習)参加者が多いため、1 年半で学ぶカリキュラムにしている。業務研修(早期実習)に参加しない残りの学生について、2 年生後期授業で何をしたら良いか。自分達で企画した旅行に行き、その内容を動画でプレゼンするという授業はどうかと思う。

石井氏

旅程管理の資格が無くてもできるサブ添乗がある。修学旅行のサブ添乗をさせるのはどうか。

※20 歳未満の学生は難しい。

鈴木氏

いつまでも続くものではないが、ワクチン接種会場での実習は現在は可能。

地曳氏

空港でのボランティアがあるが、コロナの影響でストップ中。2 年生後期のみという短い期間なので、難しい部分がある。

矢口

①インターン実施後の業界離れについては、専門生と大卒生で違いがあると思う。

②成田空港限定の企業実習実施となると、自宅が成田空港から遠い学生は時間と交通費の面でも参加が厳しくなる。空港だけでなくホテルなどでの実習も良いと思う。

③2 年後期の授業で学生に旅をさせるようなら、タブレットを持たせてオンラインで現地の情報交換をするのもいいのでは。

④2 年生後期からの業務研修(早期実習)があるので、秋卒業という考え方もあるのではと思う。

5. 教育向上委員会での内容報告

湊

共通補講の実施により、幅広い分野の検定試験にチャレンジさせる。
→ 英検・TOEIC・中国語・秘書・世界遺産・ホテル実務・色彩

進行:湊が分科会を閉会した。

【分科会】テーマパーク科

進行:石神が分科会を開会。

1. 前回の振り返り

①カンドゥー運営状況

- ・コロナ禍から徐々に来場者数が回復傾向。
- ・新アクティビティオープンで新年度のスタート強化を図る。
- ・エアライン科学生による企業内コラボブース実施。

②テーマパーク科カリキュラムに関して

- ・保険・賃金・福利厚生を考え方を授業で取り組み。
- ・今年度より18歳成人引き下げによる学生への教育

2. 関東近郊及び中部地方への実習生巡回及び業界動向。

石神

7月中旬から8月中旬約一ヶ月かけてテーマパーク業界での実習生勤務状況の様子や企業と情報交換を行った。今年は3年ぶりの行動制限無しの夏休みとのことで各企業とも人員確保など準備を行ったが、夏休み直前から流行し始めたコロナ第7派の影響で集客及び従業員に多くの影響が出ている企業が多いように思えた。一例をあげると宿泊設備で集団感染をし、濃厚接触者も勤務ができずシフトに入れない状況や感染を恐れてそもそも集客が予想数以下だったところも多くあった様子。結果として集客が伸び悩んだものの、集客がコロナ感染前に回復した際に従業員の確保の心配をしている様子であった。一部の企業ではダイバーシティの観点から髪色規定を緩和もしくは自由というものを取り入れていた。

伊藤氏

安心、安全のため、スポンサー様のブランドイメージ維持のため、頭髪やアクセサリーに関しては、いまずぐに大きく変化させることはない。

男性、女性限定などを止める動きはすでに行っている。

3. カリキュラムに関して

石神

昨今のデジタル化の影響で学内でもデジタル化を徐々に取り入れている。ホスピタリティ産業の知識に加え2年間通年でSNSの授業を導入予定。SNSルールやケーススタディーに加え学生自身が考え、学外に発信していく内容の授業展開を実施していきたい。また現状での企業内でのSNSサービス等どのように取り組まれているかご教授頂きたい。

伊藤氏

SNSに関して今年に入ってから力を入れ始めている。

石神

社会人教養という授業に関して今から教えられることでなにかあるか。

伊藤氏

LGBT問題に関しては今後もしっかり付き合っていくといけないといけない。企業研修を通して感じた為学校でもっと教えてもいいのではないかと思う。

進行:石神が分科会を閉会した。

【分科会】ホテル科

司会進行:小園

1. 2022年度カリキュラムの現状報告

<ホテル科> 大久保

【授業科目】

- ・23年度カリキュラムは22年度と大幅な変更なし
- ・23年度より2コース編成。(ホテルコース/国際ホテルコース)

【研修旅行】

- ・海外研修 国内研修に切り替えて沖縄予定(12月/3泊 or 4泊)

【検定】

- ・今年度設立のメンズスタイルアップ検定を男性学生に必須で受検をさせた。難易度は低いとの情報だったが、合格率 35%に留まった。来年度以降は必須にするか検討+合格率 UP の為に対策を検討する。
- ・語学 学生の格差あり、すでに TOIEC ハイスコアの学生はさらに向上できるように対策をする。レベルの低い学生も授業内で遅れることのないように工夫をする。

【国際ホテルコースについて】2023 年度より

- ・2023 年度より新たに新設する。定員 10 名の少人数制。
現在のホテルコースで行っているレベル分け英語クラス(3 クラス)の A クラスを対象とする。
- ・英語を生かして仕事したい・外資系ホテル希望の学生が対象。
 - ・英文履歴書対策講座(英語面接対策)、イングリッシュコミュニケーション(ネイティブ職員対応)、おもてなしイングリッシュ(日本文化を英語で伝える)を新規科目として導入予定。
- ・企業実習は、夏季はホテルコース同様に実施、冬季は海外インターンを取り入れ検討中。
(コロナの状況もあり現状未定)

【検定】

- ・コロナの影響もなく例年と変わらず受験ができています。

小園: 語学に苦手意識を持った学生が多く、国際ホテルコースの募集が厳しい状態。

飛田氏: ネイティブの先生と接点を持つ機会を増やしていく事で、語学への抵抗を軽減していけるのでは。

風間氏: 英語は必要。しかしながらインバウンドの減少と共に語学使用の機会も減少している事から、語学を使いたい学生が離職していく。

語学を習得していく事で、このように仕事が広がるというアプローチができるといいのではないかと。

【分科会】ブライダル科

<ブライダル科> 塚本

【授業科目】

- ・2022 年度後期より新規導入科目
「ブライダルマーケティング」ブライダル市場・集客について学び、Instagram などの SNS を活用して研究を深める授業内容予定。

【研修/行事】

昨年まで実施できていなかった行事や研修が、今年度は実施できている。

- ・6 月実施 ステイマナー研修
1・2 年生合同で、各業務研修を経て、模擬挙式&披露宴に参加。
1 年生は見て学べる機会、2 年生は知識を学んだうえでより主体性を持って参加することができた。
- ・6 月実施 ブライダル見学会
高校生を招いて、2 年生が企画・準備・運営するイベント制作で、例年 8 月に実施していたが、時期を早めたことで、参加者増加につながった。(昨年度 30 数名→今年度 52 名)
来年 2 月に 1 年生が同様のイベントを予定しているので、反省点を生かして準備・運営を進めたい。
- ・企業実習
昨年度はリゾートのみだったが、今年度はシティ・リゾートと受け入れていただき 8 月末までの予定。

【検定】

- ・ユニバーサルマナー検定(5 月実施) 50 名受検 44 名合格 合格率 88%
昨年度より合格率は低かった。ユニバーサルマナーの授業で、LGBT セミナーを実施。
当事者の方のお話が聞ける貴重な機会となった。

飛田氏:ブライダル業界では、映像や音楽など著作権に関わるが多くあるので、その知識も必要。
自社では独自で作曲し、著作権に関わらない工夫をしている。
そういうこともオリジナル性につながって良いのではないか。

【分科会】デュアル科
<デュアル科> 栗原

【授業科目】

・2022年度 デュアル科 カリキュラムの大幅な変更なし
→ブライダル数科目導入。

Google Classroom などを取り入れ、配布物のペーパーレス化を実施。

【研修/行事】

・本年度、宿泊を伴う行事も実施できている。
・23年度は現状の研修と併せて、ブライダル要素を取り入れた研修を実施予定。

【検定】

・専門科目(ホテル)以外の検定にも力を入れている。秘書検/PC操作に関わる検定

【2023年度について】

・夜間部ホテル科→夜間部ホテル・ブライダル科に変更。
専門科目を選択できるようになる。(カリキュラム策定中)
→1年前期は共通科目、後期よりホテル or ブライダルの授業科目選択制(4科目)。
→2年生は、前後期共に7科目の選択制を検討している。

小園:2025年度に向けて50分→90分授業に変更する方向。

就職に伴い、学生時代に学んでおくとい知識。

飛田氏:PCやタブレットなどを使用した授業を行い、機器操作に慣れていく事は必要。

風間氏:専門知識も必要ではあるが、資格取得にこだわらず、学生の個性を引き出す授業を実施し、
違った幅を持った学生の育成。

就職活動状況について

<就職> 澤田

・企業様の実習受け入れ並びに就職含め2023年度は好調。

澤田:先決内定ルールについてのご意見

風間氏:企業としてはありがたいルールであり、信頼感・安心感がある。

学生を考えると非常に難しい。

澤田:履歴書のデジタル化についてご意見をいただきたい。

風間氏:個人としては、デジタル化は賛成。

履歴書に時間をかけている学生が多く、いくつか企業を受けることも考えると
時間をかける必要があるのかどうかと思う。

もっと視野を広げることに時間をかけたほうが理にかなっているのではないか。

飛田氏:デジタル時代に沿ってはいないが、文字の書き方に人間性が現れるので重要度は高いと考える。

履歴書若しくは別様式にて、書いた文字を書面で見られるものは必要ではないか。

進行小園により閉会。

2022 年度第 2 回教育課程編成委員会議事録
 (観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科・ホテル科・ブライダル科・デュアル科)

日時	2023 年 2 月 27 日(月)	場所	バンケット実習室	進行	湊	記録	塚本
出席者	企業側(11名)敬称略・順不同						
	学科	企業名・団体名				名前	
	観光・鉄道	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会				清水 徹也	
	観光・鉄道	千葉都市モノレール株式会社				今関 真治	
	観光・鉄道	東武鉄道株式会社				中島 隆博	
	観光・鉄道	T-LIFE パートナーズ株式会社				酒井 大之	
	エアライン	一般財団法人成田国際空港振興協会				地曳 俊輔	
	エアライン	株式会社エコーパートナーズ				山田 将人	
	エアライン	株式会社エコーパートナーズ				松井 哲至	
	テーマパーク	イオンモールキッズドリーム合同会社				伊藤 弘美	
	ホテル・ブライダル	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会				飛田 和子	
	ホテル	ホテルニューオータニ幕張				風間 昭彦	
	ホテル	シティパークアンドサービス株式会社				加藤 哲也	
学校側(13名) 矢口、古川、湊、小園、北、富澤、立石、松本、栗原、石神、長谷川、大久保、塚本							
議事録	<p>【全体会】 司会進行:湊 今回の教育課程編成委員会は、ホテル科・ブライダル科・観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科・デュアル科で開催。</p> <p>1. 校長挨拶 ・コロナ禍の影響を受け、入学生の減少が顕著(2022 年度生 189 名、2023 年度生 200 名弱) ・就職先(求人)は、コロナ以前よりも好調 ・留学生についても前年度に比べ入学者数が増加 ・中村学園全体 約 1,800 名の学生数。ペットブームもあり、愛犬学園の募集が盛況である。 ・研修行事は、例年と同様に開催できている。</p> <p>2. 業界・企業の最新情報 山田氏、松井氏(エアライン) ・成田空港 ANA 中心にグランドハンドリング等の地上支援業務の人手不足が顕著 ・保安検査にお客様の長蛇の列 →検査の機械はあるが、係員がいないため、業務が回っていない。 ・コロナ禍以前に比べ、1~2 割の人員減少。海外でも同様の事象が起こっており、減便・キャンセルがある国もある。 ・外部(NAA 主催)で企業説明会を実施し、人員確保を行っている。(説明会参加者 計 477 名) ・国際線 昨対比 167%(増加) 手荷物は 300%(増加) 一つの便に対する業務量が増加している。 ・現在の成田空港では、インバウンドが増えている。 ・離職抑制のため、良い業界・会社であることを伝える。また、給与アップ・休日数の拡充を実施。</p>						

飛田氏(ホテル・ブライダル)

- ・結婚式、披露宴のキャンセル・延期はここ最近なくなってきた。(本人や家族の陽性等がなければ)
- ・少人数でも対応できるように工夫しており、人手不足はあまりない状況。

地曳氏

- ・空港運用状況 国内線・国際線、旅客・離発着ともに増加してきている。
国際線もコロナ前と比べて3年ぶりに7割ほどの回復傾向。
- ・ネパール、スリランカなどの地域はじめ、若い韓国人の旅客者が増えてきている印象。
- ・採用活動は行っているものの、離職が多く、定着しない。

加藤氏(ホテル)

- ・コロナ罹患患者の搬送などにより、過去最高実績。会社全体として好調である。
- ・外国人観光客増加により、バスも増収につながり、稼働は好調である。
- ・ドアマン、バレーパーキングの業務は、フル稼働以上の運営となっており、今後もホテル業務は好調に推移する予測。
- ・現在も新卒者10名以上採用しているものの、2022年度は離職率が増加し、他業種へ転職する方が多かったという反省点がある。

風間氏(ホテル)

- ・10月以降、全国旅行支援の影響でコロナ前に戻り、12月の稼働は過去一番の売り上げ実績となった。
- ・人材の確保、離職問題に歯止めが効かない状況。
以前まで離職率は低かったが、この一年は他業界への転向が多かった。
- ・宿泊、レストランは回復していて、ブライダルも徐々に回復傾向。
一般宴会はコロナ前の6割程の回復のため、定例ビジネスを復活していけるよう運営していく。
- ・活気あるホテルを目指すとともに、今後の方策を練りながら進行中。

今関氏(観光・鉄道)

- ・コロナ禍により乗客が減少、収益基盤を確立するために各会社運賃の見直しを行っている。
- ・鉄道料金 3月中旬より時間帯により変動制の料金を実施する予定。
- ・新たな取り組みとして、若葉区役所等の沿線各地と連携して、地域復興に取り組んでいる。
- ・ジョルダンのモバイルチケットサービス
コミュニティバス×モノレール 連携チケット販売 5月導入予定

清水氏(観光・鉄道)

- ・羽田空港は、人にあふれている。全国旅行支援(~3月31日まで)の影響が大きい。
- ・企業系の旅行も増えてきている。
- ・ペットが大ブーム。ペット同伴の宿泊施設やグランピング施設が盛況。「家族同然のペット旅行」が人気。
- ・海外旅行は、ファミリー旅行(ハワイ・アジア方面)が少し動いてきているが、団体旅行はごく少数。
- ・訪日外国人(インバウンド)は、非常に多い。
- ・アドベンチャーリズムが世界的にも求められている。
- ・観光業全体として人員不足のため、人員確保が必須。
- ・千葉県160周年6月15日に千葉県のイベントがあり、地域活性化させていきたい。

伊藤氏(テーマパーク)

- ・夏以降、お客様は安定しており、近隣のお客様が増えている。
学校団体での利用者は増加しているが、一般団体は皆無の状況で、課題である。

- ・2022年度の取組みとして

ふるさと納税、テーマパークのサブスクールに参画。

- ・コロナ前の業績に戻すことが 2023 年の目標
- ・3 月から水際対策緩和により、子供向け施設であるため、マスク着用の対策などどのように対応していくか模索している状態。
- ・3月18日 新たな駅(幕張豊砂駅)の開設により、駅前の好立地となる。

酒井氏(観光・鉄道)

- ・コロナ禍の中、活動を縮小しながらも行事を実施。教育旅行活動はしていた。
- ・インバウンド コロナ禍の時は皆無だったが、今現在大変忙しい状況。
- ・コロナ禍により、人員不足が大問題。今後どのように運営していくのが課題。

中島氏(観光・鉄道)

- ・当校観光・鉄道科学生 40 名が研修旅行にて、地域と連動した SL 体験などを実施。
- ・7 月 15 日 新型特急スペース X(浅草～日光・鬼怒川方面)が登場。
インテリアや座席など様々なコンテンツを用意して、ただの移動手段ではなく、「楽しめる」をコンセプトに取り組んでいく必要がある。併せて人を楽しませる人材が重要。
- ・人員構成 短期的にみると人が足りないが、長期的にみると足りている。
以前大量採用があり、現在 50 代を迎えており、その方々が退職をむかえると、一気に人員不足に陥るが、現在オートメーション化しているため、長期的には足りている。
ただ、人でないといけない車両・線路などのメンテナンスをする技術職もあるため、その技術や専門知識を持っていると今後強い。

進行湊により閉会。

【分科会】観光科、鉄道科

進行:立石が分科会を開会。

【内容】立石より報告

1.2022 年度 振り返り

立石:コロナ禍で自粛していた研修旅行については、観光科 2 年生は海外から国内に振り替えて実施、鉄道科は 1 年・2 年合同で実施が出来た。

・学生数・国内管理者試験の報告

・行事

- 1 年生 観光科:海外研修旅行⇒次年度へ繰り越し
鉄道科:2022 年 9 月に実施(2 年生と同一行程)
観光地研修旅行⇒12/9～12/10 にて小湊鐵道&高滝湖グランピング施設にて実施
- 2 年生 観光科:海外研修旅行⇒2022 年 12 月に国内研修旅行にて実施
鉄道科:2022 年 9 月に実施(1 年生と同一行程)
観光地研修旅行⇒2/2～2/3 にて実施

2. カリキュラムについて

立石

【観光科・鉄道共通】

- ・1 年生後期/2 年生前期「就職対策 I / II」を導入
→今までディスカッション・グループワーク練習や面接練習等の時間を個々に設けていたものをまとめて授業内で実施する。併せて、専門分野外の業界研究等も行える就職に合わせた授業とすることで、分野外の就職についてもフォローできるようにしていく。
- ・1 年後期「硬筆・書写検定対策」を導入
→就職活動における履歴書やエントリーシート及び報告書の記入など、文字を丁寧に書くという内容を中心に、人に読んでもらえる文字を習得するよう設定した。検定対策とはしているが資格受験は任意とする。

【観光科】

- ・1年生後期「観光実務Ⅱ」で企業連携
→産官学連携を打ち出すために、一般社団法人地域未来企画との授業協力で地域学習及び着地型観光の勉強を行う。2年次以降も繋げて授業を行うことで外部への発表に向けて段階を追ってレベルを上げていくようにする。

酒井氏

時代に合わせたカリキュラム作りですばらしい。

今関氏

新規科目については、良い着眼点。採用時に字が汚いというのは良い印象は受けない。マイナスなイメージが大きくなる。就職対策も専門外の分野に就く学生が増えている現状を踏まえると大切な取り組みだと思う。

清水氏

産官学連携←今の観光業界では一番のトレンド。弊社としても、4/1以降東京でやっていた仕入れを千葉からの仕入れに変更した。カリキュラムの内容を見るとデジタル、IT関連の授業が少ないような気がする。

富澤

具体的にタブレット系か、PC系か？

清水氏

本来タブレットだと思うが、現状はPCが主流である。

3. 2021年度就職状況→就職担当：富澤より報告

富澤

- ・2021年度 現状報告
観光科 採用活動企業減(大手) 2022年度生は少し回復
鉄道科 採用活動企業減(大手) 採用求人数も減少 2022年度生も更に減少傾向
地元企業は増

立石

各会社の採用について

酒井氏

採用は継続している。4月の新入社員もいる。

今関氏

当社も採用は継続。駅員・運転士は今後も必要。新卒採用だけでなく、30代くらいの年代が少ないので、中途採用もやっている。

4. その他

矢口

デジタル系の授業について、我々教員側も技術習得に苦労している。社員研修等でDX教育等を取り入れているか。

清水氏

昔は社員全員での研修をしていた。現在はイーランニングを取り入れ、個別で受講する形を取り入れている。専門学校でも可能ならイーランニング教材を取り入れると良い。

矢口

学校側として、旅行に行かせてあげたいと思っている。どうしても部屋での過ごし方等が課題。

酒井氏

部屋は4人一部屋を少人数にする、大浴場のみの使用だったものを部屋の風呂も使用可能にしている、スクール形式で食事をする等、各校取り組みをした上で実施している。

立石

現状の学生を見て、観光・鉄道分野に通用する学生を育てるために今後のカリキュラムに導入すべき内容と、少し抑えても良い科目等があれば教えてほしい。

酒井氏

人前でしゃべる、プレゼン等場数を踏ませてあげることが必要。コミュニケーション能力は必ず必要。

清水氏

ディスカッション、探求学習、コミュニケーション能力向上、この辺は必要である。

進行:立石が分科会を閉会した。

【分科会】エアライン科

進行:湊が分科会を開会。

1. 2023 年度入学生カリキュラムについて※湊

湊:

- ・これまで同様の 3 コース(CA・サービス・カーゴ)でのカリキュラム
- ・手話の授業は皆が好きで学生が楽しんでいる様子

地曳氏:インフォメーション業務においても、指文字や手話を使用しており、皆、比較的覚えるのが早い。
国内でも、地方によって手話が異なる。

2. 2024 年度入学生カリキュラムについて※湊

湊:

- ・CA コースとエアポートコースの 2 コースとし、エアポートコースはカーゴと旅客両方を学ぶコースとなる。
- ・2024 年度入学生カリキュラムの売りは、海外語学研修を 3 週間に延長したこと。その分 2 年次のカリキュラムを少なくした。

山田氏:カーゴの授業を行っているエコーパートナーズ本社の施設がパワーアップし、プッシュバックの訓練ができるようになった。

①パソコンの授業について

松井氏:1 年次の共通科目にあるパソコンの授業と 2 年次のパソコンの授業に違いはあるのか?

→湊:カーゴ事務の仕事やアマデウスでもパソコンを使うため、1 年次だけの授業では足りないので 2 年次も入れている。

山田氏:パソコンの授業開始前の学生のパソコンスキルはどの程度か?

→葉原:ブラインドタッチができるのは、1、2 名ほど

→湊:自宅にパソコンがない学生が多い。スマホやタブレットを使用している。

山田氏:レポート等の入力を空港でも行うので、パソコンは学校で習得してほしい。

湊:パワーポイントは出来なくても、ワードとエクセルができていたらいいか?

→地曳氏:エクセルの数式が壊れた時に直せるくらいのスキルは持っていてほしい。

②2 年次後期のフレッシュャーズセミナーについて

湊:2 年次のモチベーション維持が難しい。2 年次後期にあるフレッシュャーズセミナーは、社会人としてのマナー等を学ぶ授業。ただ、2 年次後期からの業務研修開始で、その授業を受けずに入社すると企業にご迷惑が掛かるのではないかと思う。

地曳氏:マナーや身だしなみは学校で学んでから入社してほしい。

山田氏:言葉遣いについてはこちらが相手のレベルに合わせていることもある。基本的なマナーが身に付いているだけで全く違う。可愛がられる方法を身に付けるべき。

3. 業務研修(早期実習)について

松本:エアライン業界では、業務研修(早期実習)は今後も継続されるか?

→山田氏:今後、さらに業務研修(早期実習)に拍車がかかると思う。

湊:学校としては、2 年生の 1 月以降での業務研修(早期実習)開始が希望

→山田氏:年末年始が終わったら閑散期のため、1 月入社は望ましい。学生の希望や将来も大切。

山田氏:エアライン業界では業務研修(早期実習)があることを入学時に伝えているのか?

→松本:入学時には伝えていないが、入学後の就職授業内で伝えている。

地曳氏:教育に時間がかかるため、早めに入社し慣れたうえで4月を迎えて欲しい。

4. エアライン業界の魅力発信プロジェクト

湊:エアライン業界の魅力を発信するプロジェクトを企業と連携して行いたい。

地曳氏:NAA 発信でエコーパートナーズ様協力のもと、Peach のイメージ動画を作成した。YouTube で発信予定。

山田氏:オープンキャンパスでの企業連携はあるのか。

→湊:3月にNRTAS 様協力のもと、イベントを実施予定。

地曳氏:NAA も巻き込んだら良いと思う。JAL のレストランで食事し、空港を見学するツアーは行っている。

進行:湊が分科会を閉会した。

【分科会】テーマパーク科

進行:石神が分科会を開会。

司会進行:石神前回の振返り

① 3年ぶり行動制限無しの夏休みで多くの企業様に夏季実習の学生受入をして頂いた。

また一部の企業様で実習生のコロナ濃厚接触及び体調不良等ご迷惑をおかけした。

石神 :当校の学生がコロナにかかりご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。

大塚様:関西の学校の実習生はコロナ関係でお帰り頂くこともあったが

ITHB の学生は残り実習を続ける事が出来、助かりました。

② テーマパーク科カリキュラムに関して

・SNS を使ったテーマパーク企業情報発信。

・LGBT ゲストへの理解。お子さま職業体験の際、一部職業での男女制服の固定観念の廃止。

大塚様:社内研修等でLGBTの方に対しての取り組みをどうしていくか動き出している

・今後の運営でマスクに関してどのように動くか

大塚様:遊園地協会のガイドラインに沿って動く

従業員に関してはこれからだが、お子様がマスクをつけていなくてもお声がけすることなどはしていない。

2. 関東近郊及び中部地方企業様からのご意見業界動向。

大塚様

海外のお客様も増えてきており、ホテルの利用も多くなりつつある。

平日は半数以上が海外のお客様。

伊藤様

インバウンド需要はそれほど多くない。

オリンピックに合わせ対策をしようとしていたがコロナが広まってしまった。

新駅が出来るが爆発的に来場が増える事は考えづらいが、恰好のビジネスチャンスであることは間違いない為、策を模索している。

3. カリキュラムに関して

・新カリキュラム『SNS マーケティング』入学～卒業まで

SNS 関連の基礎知識から学科情報発信などを行う。

伊藤様:SNS の難しさは継続して投稿していかないといけない所。

トピックスがあれば投稿できるが難しいところもあるかと思う。
進行:石神が分科会を閉会した。

【分科会】ホテル科

小園より分科会を開会。

1. 2022 年度カリキュラムの報告/2023 年度に向けて
大久保:ホテル科

【授業科目】

- ・2023 年度カリキュラムは 2022 年度同様。
- ・2023 年度より 2 コース編成になる。(ホテルコース/国際ホテルコース)
⇒2024 年度より国際ホテル科(ホテルコース/英語コース)に変更。
入学希望者1名。
- ・就職英語面接対策の特別補講を時間割外で実施。

【研修旅行】

- ・2022 年度実績
- H1 TDR ステイマナー(7 月/1 泊 2 日)
- H1 リゾートホテル視察(11 月/山梨長野方面 1 泊 2 日)
- H2 海外研修→国内研修に変更(12 月/沖縄 3 泊 4 日)
※2023 年度より 2 年次に行う予定
- H1 TGG 研修(12 月/お台場)
- 海外生活を疑似体験。旅行カウンター窓口、スーパーマーケットなどを
利用する際のお客様体験ができる(英語対応)

【検定】

- ・HRS 検定:2022 年度受検状況報告
例年と変わらない合格率

【国際ホテルコースについて】

- ・2023 年度より新たに新設する。※現在入学予定 1 名
- ・現在のホテルコースで行っているレベル分け英語クラス(3 クラス)の A クラスを対象とする。
- ・英語を生かして仕事したい・外資系ホテル希望の学生が対象。
- ・①英文履歴書対策講座(英語面接対策)、②イングリッシュコミュニケーション(ネイティブ職員対応)、
③おもてなしイングリッシュ(日本文化を英語で伝える)などを通常のホテル科のカリキュラムに加えて任意の
時間で授業を行う。
- ・企業実習は、GW は必須(ホテルコースは任意)・夏季はホテルコース同様に実施、冬季は海外インターンを取り入れ検討中。
- ・OC で積極的に英語を使った体験授業を行うことでの新コースのアピールをした。

小園氏 ホテル科国際ホテルコース

高校生の時から外資系を意識してコースを決めるという方向性は難しかったのかなと思う。
英語対策の特別授業は、新 2 年生対象にはじめています。

風間氏 英語の必要性は間違いない。

語学力は、社会に出た時に苦手意識、理解する姿勢が見受けられる。
文法とかよりもレベルを下げて、外国人に、英語に慣れることが大切なのではないか。
好きになってもらうための対策をしていけたらいいと思う。

飛田氏 新幹線などに乗ると、若い車掌さんが日本語と英語でアナウンスされている。

お寺でもインバウンドのお客様が多いこともあって、案内がオールイングリッシュだった。
英語放送を聞いたり、工夫して英語になじむことが大事なのではないか。

小園氏 留学生との交流もないので、あまり活かせていない。

加藤氏 伝えたい→どうしたらいいか？それでも伝わる。
最終的には接客すること、伝えることに意味があることが軸である。
聞くのは時間がかかっても。

小園氏 現場での対応はどのようになさっていますか？

加藤氏 困っている動作とシチュエーションでだいたいわかるので、
英会話のシチュエーション別の対応策を行っていく。
コミュニケーションすることが何より大事。

【分科会】ブライダル科

塚本：ブライダル科

【授業科目】

- ・2022 年度新規科目 「ブライダルマーケティング」
ゼクシィなどの誌面、SNS(主に Instagram)を使用し、集客について研究を深めた。
ブライダル見学会での集客をする際、学んだことを活用することができた。
1 年生対象だったので、難しさは感じていた。
- ・2023 年度新規科目
「接客手話」
1 年次に学ぶユニバーサルマナーのステップアップとして導入
「ブライダルプランニング」
BC 技能検定 2 級の実技対策も含めて、ロールプレイングを通して接客スキルを学ぶ

【研修/行事】

- ・海外研修以外の宿泊行事は、実施することができた
- ・成果発表 1 年生/ブライダル見学会(都内ホテル) 2 年生/卒業制作発表会(校内)
- ・2023 年度より、「リアルウエディング」の実施

【検定】

- ・BC 技能検定 3 級 合格率 79%
- ※2 級受検者 5 名 学科合格率 100% 実技試験受検者 2 名:結果待ち
- ・色彩検定 3 級 合格率 77%

塚本氏 ウエディングプランナーコースとビューティスタイリストコースのそれぞれの特徴をどのように
精査していけばいいか。

小園氏 新たな試みとして、ブライダル見学会の時期・場所を見直して実施した。

風間氏 充実していて良いと思う。

WP コースと BS コースについては、1 年生の後期から選択制を設けてもいいのでは。
全体的に学ばせたいのか、より深掘させたいのか。

小園氏 BS コースは、9 割がドレススタイリスト希望。

WP コースからは、ホテル・ゲストハウス・ドレス・ジュエリーなど様々な可能性が広がる。

風間氏 後期から目指す方向(コース)に分かれると、就職活動に間に合うのか。

小園氏 1 年生入学時から就職活動対策を行っていくので、問題はないと思う。
授業数は多いので、そのあたりがうまく作成できるか懸念はある。

飛田氏 近年、和装での人前式をご希望の方もいる。

今後人前式の需要は増えてくると思うので、ブライダルだけでなく様々な知識を持って幅広く

ご提案できるとよいのでは。
カリキュラム内容は良いと思う。

小園氏 神前式視察もこれまでは近隣の神社で行っていたが、次年度より卒業生のいる乃木神社を予定している。

加藤氏 ビジネスマンとして、これがやりたいというのを掴みやすいカリキュラムになっているのではないか。

【分科会】デュアル科

棄原:デュアル科

【授業科目】

- ・22年度生 ホテル科のみ 8名
DX化 力を入れてきた
- ・23年度入学生より、再度ブライダル要素を取り入れた運用を開始。
1年次後期より専門科目(ホテル・ブライダル)の選択を実施し、自身に合ったカリキュラム構成が可能となる。1年生後期より4科目選択 2年生7科目選択

【研修/行事】

- ・TDR ステイマナー／オリエンテーション合宿(4月)
- ・リゾートホテル視察研修 (11月) *昼間部ホテル科合同

【検定】

- ・BC 検定対策 受験者 6名 合格者 4名/66%
- ・23年度よりユニバーサルマナー検定 2.3級を実施。

【2023年度について】

・夜間部ホテル科→夜間部ホテル・ブライダル科に変更ホテルとブライダルの両方を学べるコースにしていく。
(専門科目から選択できるようなカリキュラムを実施)。

次年度新入生 21名

風間氏 良い選択。高校生からすると経験したり見たりできる要素があることはすごく良いと思う。
自分が本当に何をしたいのかを見つけていけると思う。
料飲宿泊両方半年ずつ経験するシステム。いろんなことに興味がある若い世代。

飛田氏 ブライダルは何でも知っているだけ引き出しの材料になる。分野のことだけでなく、違う知識も得たうえで結び付けていけるようになるとより良いと思う。

加藤氏 賛成。道を狭めないためにも、あまり強い色分けは避けたほうがいいのでは。
幅が広がることはすごく良いことだと思う。

小園氏 企業実習 ホテル科・ブライダル科はある。

夜間部 デュアル科以外は、現場でのアルバイトをせず卒業する学生もいる。
シティホテルのみの選択肢しかなかった
リゾートホテルでの希望者募ったところいた。

2. 就職活動状況について

小園氏:昨年同時期と変わらない。

今後の課題としては、好調な中でも活動している学生以外のアプローチをどのようにしていくのが課題である。

求人数【本年実績】634件(2/27現在)+215件【昨年同時期】423件(2月末)

2023卒 卒業生就職率:対象者 205名 内定者 193名 内定率 94.1%

就職希望者 就職率: 対象者 203名 内定者 193名 内定率 95.1%

【内訳】

- ・ホテル科 54名在籍中 51名内定 内定率 希望者 96.2% 卒業生 94.4%
- ・ブライダル科 両コース 44名在籍中 42名内定 内定率 希望者 100% 卒業生 95.4%
- ・夜間部 ホテル科 15名在籍中 14名内定 内定率 希望者 100% 卒業生 93.3%
- ブライダル科 5名在籍中 5名内定 内定率 100%

矢口氏 選択制は、選べる良さがあるが、人数が少なくても運営しなくてはならないという難しさもある。
2025年度から、単位数・科目数を減らして、50分→90分授業にすることも検討している。
ブライダルでは、土日インターンなどを入れて、平日休みなども他校は行っている。

進行小園により閉会